

第 296 回 昭和の森自然観察会

仲良くなろう！トンボとセミ

花島伸美（千葉市）

開催日：2016 年 8 月 14 日（日）9 時～12 時 天候：晴

参加者：30 名（大人 17 名、子ども 13 名）、指導員 11 名

担当指導員：木下順次、花島伸美

毎年夏に行われるトンボとセミの観察会。今年はオリンピックとお盆に重なったが、予想を上回る親子 30 名の参加があった。受付でトンボやセミの成虫や羽化殻の標本を展示すると、参加者が覗き込んだり、質問したりして、観察会前に指導員との良い交流の場ができた。

（セミの観察）開始直後に子どもの目の高さに止まっていたアブラゼミを参加者の子どもに捕ってもらい観察した。その後、セミが出てきた穴を多数見つけ、棒を差しして地面からの深さを確認したり、樹上に連なるアブラゼミの羽化殻を落として、虫眼鏡でその特徴を観察した。そして、写真絵本『セミたちの夏』（小学館）を見て、5～6 年に亘るセミの一生をイメージしてもらった。その後、杉林の中でニイニイゼミの羽化殻が 10 個以上付いている木を見て、ヒグラシ・ニイニイゼミ・ツクツクボウシの鳴き声の聞き分けやそれらの羽化殻や成虫を探した。

（トンボの観察）中菖蒲田に下りると、ナツアカネ・シオカラトンボ・オオシオカラトンボが目立ってきた。だが、なんと言っても参加者の一番のお目当てはオニヤンマである。水路の上 1 m 位の草の中に羽化殻も見つけた後、成虫を親子で追いかけた。参加者の父親と子どもと指導員が見事に捕獲して、オスとメスの違い、顎の強さ、目の色や大きさなどをじっくりと観察して、各自がカメラにその姿を納めていた。下夕田池では、チョウトンボ・ショウジョウトンボ・アオモンイトトンボが見られた。小さなイトトンボは子どもでも捕獲しやすく、ヒラヒラと飛翔するチョウトンボも夢中で追いかける親子の姿があった。



（まとめ）今回は、観察会資料がセミのクイズやトンボの顔のビンゴゲームだったので、観察会の合間の休憩時間に活用できて、その場での振り返りにもなり、最後の答え合わせやまとめの時に子どもからの発言が多かった。

夏の観察会は、昭和の森の豊かな自然環境を利用して、親子で様々な種類の昆虫に出会える格好の機会である。しかし、虫取りに夢中になりすぎ集団から離れてしまったり、移動距離が長くなり列が乱れて集合に時間がかかったりすることもある。今回は一班編成であったが、二班にした方が説明を聞きやすく、最後の感想にも時間がかからなかったのではないかとの意見も頂いた。今後の課題にしたい。